平成３０年5月２８日

北海道電力株式会社
泊発電所長　舟根　俊一　殿

泊原子力規制事務所
統括原子力運転検査官　稲垣　隆二

安全文化･組織風土劣化防止に係る取組の総合評価及び要請（指導）について

平成２９年４月１日から平成３０年３月３１日に行われた、泊発電所における安全文化醸成活動については、以下のとおり評価しましたので通知します。取組要請事項については、確実に実行されるよう求めます。

記

1.　総合所見

平成２９年度計画に掲げた取組は、従来の継続的な活動に加え、前年度要請事項を踏まえ実施されていることを確認した。また、安全最優先とするトップの考えに基づき、発電所において安全側に意思決定することの意識強化を図るなど「計画に基づいた取組が行われ、改善傾向が見られる」と評価できる。

また、劣化兆候については、事業者における自己評価のためのアンケート調査及び日常の活動状況等から「改善傾向が見られる。但し自己満足することなく継続監視が望まれる。」と評価できるが、現在の状況に満足することなく「取組要請事項」を踏まえ、なお一層の安全文化の醸成に努めていただきたい。

2.　取組要請事項

運転･保守等の手順書の作成･見直しの際に、部署間での更なる「良好なコミュニケーション」の充実に努めていただきたい。また、作業環境を考慮した無理のない現場作業計画を立案する等の「作業管理」の更なる充実を図っていただきたい。

3.　奨揚がふさわしい取組

福島第一原子力発電所のような事故を決して起こさないとのトップマネジメントの意向を受けて、福島第一原子力発電所事故事例を通して自らの意識や行動を再確認し安全を最優先する意識を強化するための教育を継続して実施しており、事故の風化防止に努めている。

以上